

各地区業況アンケート結果（2022年10月調査分）

（2022年10月26日）

全国鉄鋼販売業連合会

日頃より当会へのご協力厚く御礼申し上げます。さて、10月25日締切で、当会役員141名に対しこのアンケートを行ったところ74名の回答があり（回答率52.5%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。DI = (A×2+B×1-D×1-E×2) ÷ 総回答数×100、(数は回答実数)

1. 売上数量前年割れ5割弱

問1】貴社の9月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	6	8	25	13	21	73	74
比率	8%	11%	34%	18%	29%	DI-48	DI-31
売上金額/前年同月比	29	8	24	8	5	74	75
比率	39%	11%	32%	11%	7%	DI+65	DI+77

2. 収益状況は前月と変わらず

問2】貴社の9月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	26	23	17	4	3	73	75
比率	36%	31%	23%	6%	4%	DI+89	DI+89

3. 盛り上がりなく低調な販売続く

問3】貴社の営業窓口から見て10月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		9	30	6	3	48	-6	+12
民間建設向		15	29	9	3	56	±0	+7
自動車向		3	22	7	3	35	-29	-53
その他需要家向	1	9	42	8	1	61	+2	+3
仲間取引		5	38	11	7	61	-33	-28
計	1	41	161	41	17	261	-12	-9
比率	0%	16%	62%	16%	6%			

4. 今後あまり期待できず

問4】貴社における向う11月から1月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横這い	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	3	23	34	10	4	74	75
比率	4%	31%	46%	14%	5%	DI+15	DI+17

5. 鋼板類過剰気味傾向続く

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	品種別	A	B	C	D	E		10月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-3	-6	-15	-17	-10	-10	-10	-3	-12	-21	-4	-17	鉄筋用丸鋼			23	2		25	-8
11	6	-3	-7	-3	-14	-23	-7	-14	-23	-21	-15	構造用丸鋼			24	5		29	-17
6	6	-10	-9	-9	-10	-6	-11	-17	-19	-15	-9	平角鋼			28	5		33	-15
43	35	20	7	0	-10	-7	0	3	14	14	7	H形鋼		3	21	2		26	4
150	139	88	91	13	19	30	39	30	19	33	27	コラム		7	10	1		18	33
3	6	-11	-6	-15	-21	-11	-26	-30	-23	-18	-14	小形山形鋼			27	6		33	-18
8	3	-11	-6	-18	-21	-12	-22	-28	-32	-20	-19	中形山形鋼		1	22	9		32	-25
11	6	0	-6	-9	-9	-15	-19	-27	-18	-15	-15	溝形鋼		2	23	7		32	-16
65	34	19	0	0	-4	-10	-6	-15	-14	-15	-14	軽量形鋼C形			20	3		23	-13
39	27	-5	6	0	-6	0	0	-13	-12	-13	-17	軽量形鋼広巾			15	1		16	-6
110	79	45	24	3	-41	-39	-33	-61	-61	-63	-67	冷延薄板		2	13	11	3	29	-52
83	53	35	17	-17	-33	-20	-23	-44	-41	-45	-56	熱延薄板		1	17	11	2	31	-45
127	97	59	47	21	-24	-30	-26	-41	-34	-48	-56	表面処理鋼板		4	17	13		34	-26
109	80	47	15	-15	-27	-35	-31	-57	-64	-79	-81	酸洗鋼板		2	11	11	3	27	-56
76	43	30	10	-13	-18	-14	-9	-33	-37	-46	-36	中板		1	22	13	2	38	-42
83	67	53	26	-3	-5	-10	-23	-27	-35	-38	-33	厚板		1	25	10	1	37	-30
68	52	35	26	9	18	-6	-17	-6	-12	-12	-17	極厚板		3	15	2		20	5
41	33	7	14	3	-7	-3	-13	-23	-21	-21	-25	縞板		1	21	4		26	-12
71	64	21	16	0	-3	-3	6	-3	-3	-13	-6	中径角			24	4		28	-14
32	38	23	6	-3	0	-14	-6	-6	-9	-12	-20	ガス管黒			29	3		32	-9
39	38	19	13	0	0	-9	-3	-6	-6	-10	-16	構造用鋼管			28	1		29	-3
55	43	21	12	-4	-12	-13	-13	-22	-23	-24	-25	計	0	28	435	124	11	598	-20

6. 秋需は盛り上がりせず与信不安増す

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	(形鋼) 秋需の最盛期を迎えているが、思った程の盛り上がりない。積み残し値上げの正念場でもある。
	B	物件も少なく安売りする所も聞こえてくる。
	C	域内の丸棒需要は秋口、例年に比しても少ない。このまま不需要期を迎えてしまう。しかし、メーカーは来年度の新幹線や札幌中心の大型案件をにらみ、価格は高止まり。環境の良くない冬場となる。
	D	全体需要が乏しく盛り上がり欠ける。価格転嫁も道半ばといったところで、収益も期待できなくなっている。与信リスクは大きくなっており、難しい対応となっている。
	E	金額はなんとか回復したように見えるが、相変わらず、小口、倉出しは少ない。
東北	A	地元中心案件が少なく、需要の盛り上がり乏しく、店売りの出荷量は減少しており、荷動きは低調。秋需に期待していたが、物件のずれ込みなどにて今ひとつの状況。少ない案件ではゼネコンの低落が散見され、材料の指値も厳しくなっている。スクラップ価格が横ばいで様子見の傾向にあり、現状価格の維持を図りつつメーカーの動向に注視したい。

東北	B	建築関連は低調。連動して店売り低調。10月より高炉が値上げを実施。
新潟	A	パイプ、フォーミング製品は、もう一段の上げがあるようだが、価格面は落ち着きつつある。地域の建築は少ないが、大手ファブは多忙で協力ファブにも仕事が入っている。地区や業種によっては年内一服感がある。
	B	荷動きあまり良くない。価格も落ち着いてきている。
	C	秋需への期待は薄く、価格は弱含みで利益確保が難しい。
	D	現時点では、土木・建築とも盛り上がりがない。地場建築物件がないため、Mグレード以下のファブは厳しい。
	E	相変わらず停滞した商況が続いている。季節用品は例年より早く生産終了した物が多く車は生産が不安定で在庫調整に苦労している。
	F	来年以降の需要が少ない。それを反映してか、ここへきて関東からの安値が散見されるようになってきた。メーカーは強気の姿勢を崩していないので、流通にとって踏ん張りどころである。
	G	地場物件は少なく、想定していた以上に部品調達難の影響も続いているため、全品種において盛り上りに欠ける状態となっている。
神奈川		在庫の過剰感がある。鋼材価格が高止まりする中、製品への反映を進めているが、依然状況は不透明で、先の予想は困難な状況が続いている。
		某自動車メーカーのエンジン不正問題で9月は大幅に生産計画に影響があった。足元は若干回復傾向も不安要素あり。そのほかの分野も全般的に低調。
東京	A	需要は停滞したままである。在庫がなかなか減らない。一段下がった電炉材価格。更に安い輸入材価格、高止まりの高炉材価格。価格帯が二段、三段に分かれている状況。値上げ環境には全くない状況になってきた。そろそろ粗利が厳しい状況になっており、思い切った仕入れの変更が必要になってきている。
	B	(店売り関連) メーカーの値上げにより工事の延期、中止あり。売上、引合いも減少している。(建設機械関連) 建設機械は好調も維持しており、下期も引き続き好調を維持できそう。
	C	9月は売上高、販売数量ともに増となった。中身は薄いが多少なりとも需要が出てきたようである。建築関係では止まっていた案件が漸く動き出したものの職人が足りずに現場の進まない話を聞くようになった。
	D	薄板の売り込みが激しい。価格もまだらで高炉、輸入、電炉の三極化。特に高炉品は契約数量微量なのか市中なかなか見つからない。需要家も国内高炉品に拘らなくなってきている。
	E	荷動きは変わらず安定。建築関係は大型中心ではあるが、中小物件も見積りが出始めている。製造業向けは動いてはいるが回復しているとまでは言えない。自動車一部で注文ストップも出ている。
	F	需要が伸び悩む中で、各社、在庫消化を目的とした安売りが目立ち市況が上がらず厳しい環境である。
	G	受注状況は好調だが、半導体不足など、エンドユーザーの状況で納入できないことも発生している。
	H	主力の磨棒鋼は前月に引き続き低調。今後は自動車関連に期待したい。
	I	建機は引き続き好調を維持しており、前年同月比増の要因となっている。シームレス鋼管の値上げを10～11月にて実施予定だが、同業の値上げ意欲は一段階目より弱含みに思える。
	J	売上、収益、荷動きについては今年6月辺りからずっと変わらず低位横ばい。
	K	値上がった高炉材が入庫し、値上げ転嫁が急務になっている。顧客に値上げの説明に行っても、競合他社はアナウンスにもきていないケースが目立つ。

静岡	A	秋需とまではいかないが、M、Hグレードの上位ファブは山積みも高く（年度内から来年5、6月頃まで）稼働もよい。中位以下のファブは手頃な案件が少なく、M、Hグレードのファブに協力しながら稼働を保っている。在庫はやや過剰感が強く安値も散見される。薄板の安値玉は今後の不安要素。
	B	相変わらず大手ファブは加工図面作成に苦労している。図面丸投げで請負加工流通は超繁忙であるが、今日、明日の対応は不可の様であるのでニッチな加工は拾える状況だが、価格は厳しい。10月から諸物価値上げのアナウンスが続いているが、「処変わらば品変わる」状況ではないか。基本的に内需指向が鉄鋼業界を支えると思う。国際情勢から目は話せない。日中、日ロ、日朝どれもだめ。日米、日韓もよくわからない。不良債権ゼロ継続中。台風15号災害で県内操業遅れが発生。入金遅れ、繰越しなどの発生が懸念される。
石川		建機は好調。工作機械、その他、産機も好調に近い。但し、半導体その他部品20種類が不足気味だが、少し緩みかけてきた感じである。バス、トラックの生産停止命令が加工市場をやや冷やしている。一年は続くだろう。土木出件は続いているが、迫力不足である。建築は大手ゼネコン中心の物件が好調でファブもAクラス中心に2年先まで見えている。小型物件は物販業界中心になっているが、2ヶ月先以降はわからない。全体として販売力のある鉄屋は底堅い。
富山		地元による地元のための仕事が少ない、太平洋側向けの物件で対応している。仕事量は回復傾向にあるが、6～7割操業が8割に回復している程度である。価格転嫁の遅れているところが赤字に転落する業績となっている。更なる価格転嫁が難しい気配である。
岐阜		鋼種によっては値上げが少なくユーザーへの反映も遅い。金額の前年同月比に関して、今年あまり追い風がない。数量に関しては言うまでもなく減っている。1件1件の利益率がとても大切になる。
大阪	A	建築関連など景気が回復する兆しのようなものが見えている。しかし、価格が膠着もしくは若干下がってきているので、収益面は芳しくない。在庫の評価額が上がり、労務費、光熱費などのコストも上昇してくるので、この相場では今後も厳しい。
	B	足元は需要が低いが見積りは来年1～2月納期の案件が来るようになってきた。電気料金が値上げによるメーカーの動向を注視したい。
兵庫		本来、需要が増える時期に入っているが、今のところ目立った動きがない。先物発注のメーカーからの上りが早くまた引取要請があるので倉庫がいくらあっても足りない位である。
岡山		在庫の仕入移動平均値が上がってきている。数量減でも利益が出ているのは今だけだ。今後は数量もある程度必要になっていく。ハイテンの発成品が少なくなってきた。
北九州		高値玉との入れ替わりで利益率が低下している。九州地区は大型物件が動いているので、加工は忙しいが倉出しの価格転嫁が課題である。
福岡	A	上期に契約した高い高炉製品が入荷してきているが、なかなか値上げが進まず苦戦している。
	B	先行き不透明な需要環境に変化なく、国内外メーカーの価格動向はまちまちで高炉品は市況との乖離が大きく、価格転嫁完遂の課題を残し厳しい状況が続いている。
	C	先行き不安。例年この時期はなんとかなるだろう感は全くない。